

✈ 海外生活 だより

ロンドン事務所

ロンドンの公共交通機関 (バス・地下鉄・自転車・鉄道・飛行機)

(財)自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐
大庭 達哉 (静岡県派遣)

毎日の通勤や通学に、そして出張や旅行などで人々の生活を支えている公共交通機関。環境負荷軽減、渋滞解消そして高齢者などの移動手段として公共交通機関の役割は今後もますます大きくなっていくことが予想されます。ここでは、英国ロンドンの公共交通機関事情について報告します。

ロンドンの赤い2階建てバス

ロンドンと言えば、Fish & Chipsと並び、赤い2階建てのバスを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。ルートマスターと呼ばれる旧型の2階建てバスは1950年代に導入されて以来、

ロンドン名物として親しまれてきました。旧型ルートマスターは、運転手に加え車掌が必要でありその人件費が負担であるこ



旧型ルートマスター

と、燃費が悪いこと、そしてバリアフリーでなく車いすでの利用が困難なことから、その数は大幅に減少しています。現在は、観光客の利用しやすい一部の路線でその姿を見ることができます。

そして、旧型ルートマスターに代わり、EU等の規制に適合した環境にやさしくバリアフリー対応の新型車両が導入されています。現行のバスも多くは2階建てのとても背の高いバスです。2階の最前列に座ると観光気分で見渡すことができます。

また、旧型ルートマスターを惜しむ声に応えるため、旧型と同様、後部からの乗り降りが可能で、かつEUの規制をクリアした最新型のバスが今年

6月から本格的に導入され始めています。

【ロンドン事務所HP関連記事】 マンスリートピック
(2012年7月) [http://www.jlgc.org.uk/jp/](http://www.jlgc.org.uk/jp/information/monthly/uk_july_01.pdf)

[information/monthly/uk_july_01.pdf](http://www.jlgc.org.uk/jp/information/monthly/uk_july_01.pdf)



新型ルートマスター

150年の歴史を持つロンドンの地下鉄

ロンドンの地下鉄は開業が1863年と世界で最も古く、その丸くて長い筒状の車体からチューブという愛称で呼ばれています。今年はちょうど開業150周年にあたり、各地で祝典が行われています。

チューブは、日本の地下鉄とはさまざまな面で異なります。まず、運賃は区域(ゾーン)



別に設定されており、ロンドン中心部をゾーン1とし、そこからドーナツ状にゾーン2、3、4とゾーン1を囲むように広がっていき、そのゾーン間において定額で運賃が決まっています。また、地下鉄には時刻表がなく、駅に着くと何分後に来るという表示があります。また、エレベーターやエスカレーターのない駅が多いため、大きな荷物がある場合やベビー

カーを利用しているときは乗り換えや地上へ出るのに苦労することもあります。トイレについても同様に、多くの駅には設置されていません。週末の運休にも注意が必要です。週末に一部の路線を閉鎖し、線路や信号などの保守点検や修繕をすることがたびたびあります。

都市交通としての自転車

ロンドン市内の至る所にドッキングステーションと呼ばれる無人のレンタル自転車貸出場所があります。そこには、約8,000台のレンタル自転車が提供されており、天気の良い日は通勤にも使われています。利用する際は、ドッキングステーションにある操作パネルで手続きをします。日本語にも対応しているので、旅行者も手軽に利用することができます。返却も簡単で、借りた場所に戻る必要はなく、最寄りのドッキングステーションに自転車を固定するだけです。今後、さらに規模が拡大される予定です。

世界で最も長い歴史を持つ英国の鉄道

英国の鉄道は、世界で最も長い歴史を持ち、今から約180年前の1830年頃からその歴史が始まります。この英国の鉄道技術は、後に日本の鉄道建設に大きな影響を与えました。ちょうど150年前の1863年に長州藩から英国に留学した井上勝が、英国で鉄道技術を学び、帰国後、当時の鉄道庁で英国技術者の支援を得ながら、鉄道建設を推進しました。彼は「日本の鉄道の父」と呼ばれています。

ロンドン市内には、いくつかの主要な駅があり、目的地の方面によって出発駅が異なります。それぞれの駅は地下鉄で結ばれているので、どこへ行



鉄道（キングスクロス駅）

くにも便利です。車両は日本よりやや小型で、座席の向きは変えることができません。

料金システムも日本とは異なり、「早割」が広く普及しています。早く購入するほど価格が低く設定されています。例えば、ロンドンとパリなどを結ぶユーロスターは、約4か月前から売り出されますが、発売直後の価格と出発直前の価格は約5倍違うこともあります。

手軽な空の旅

日本など長距離からの国際線の多くはヒースロー空港に発着しますが、ロンドン周辺にはほかにもガドウィック空港などいくつかの主要な空港があります。ロンドン中心部からアクセスが良い空港が多いことが特徴です。

日本と同様、欧州でも多くの格安航空会社が運行しています。各社価格を下げるために、サービスを選択制の有料としたり、預け荷物を有料にしたり、座席を小さめにしたりとコスト削減に努力しています。英国には、ライアンエアやイーজেットといった格安航空会社があり、昨年の年間利用者はそれぞれ約8,000万人、約6,000万人です。これは、日本の航空会社の年間利用者数が約4,000万人前後であることからその人気うかがえます。航空券に関しても「早割」が普及しており、早く購入すれば驚くほど安く購入できます。

最後に

2011年に実施された10年に1度の国勢調査によるとロンドンの人口は現在約820万人です。渋滞緩和のためロンドン中心部への自家用車の乗り入れは規制されており、乗り入れる場合は、コンジェスチョン・チャージといわれる渋滞税£10（約1,500円）/日の支払いが必要です。この金額もさらに高額にしないと効果がないといわれているほど市内は渋滞しています。また、ケンブリッジ市では市内中心部の住宅不足のため、郊外に約6,000台分の駐車場が整備され、駐車場と市内をバスが結ぶPark & Rideが普及しています。英国では今後の人口増加も予想されており、ますます公共交通機関が発達していくことになると思います。